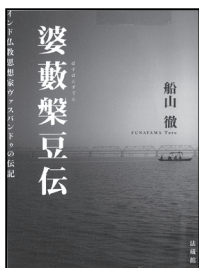


教化センターだより

No. 413

発行日 2021年11月1日
発行 真宗大谷派大阪教区
教化センター
TEL 06-6251-0745
FAX 06-4708-3278

◆ 御堂文庫 蔵書の紹介 ◆



〈発行〉法蔵館

『婆藪槃豆伝』 インド仏教思想家ヴァスバンドゥの伝記』

〔著者〕船山 徹

本書はインドの仏教史に大きな足跡を残した思想家ヴァスバンドゥの最も古い伝記資料を扱う。ヴァスバンドゥはインド仏教思想に燦然と輝く。インド大乘仏教史で最も偉大な思想家と評価する人もいる。
(はしがきより引用)



〈発行〉法蔵館

『全訳六度集経 仏の前世物語』

〔訳者〕六度集経研究会

(仏は)菩薩の「六度無極(六つの方法で悟りの世界に至る)」ということ説かれた。それは及び難い高邁な行いであり、速やかに仏となることができる教えである。六つとは何か。第一に布施、第二に持戒、第三に忍辱、第四に精進、第五に禪定、第六に明(智慧)であり、悟りの世界に至る高邁な行いである。
(第一冒頭より引用)



〈発行〉岩波書店

『梵漢和対照・現代語訳 法華経 上・下』

〔訳者〕植木 雅俊

本書は、複数のサンスクリット・テキストに綿密な校訂を施し原典テキストを確定させるとともに、深い仏教理解に基づいて詳細な注解を付した画期的達成である。
(カバーより引用)

— 教化リーフレットの

「活用」について —

4枚の「教化リーフレット」

は、各寺院・教会において「寺報」

や個別に複写しての配布、同朋

会や圓法会での教材として活

用いただければ幸いです。

— 11月のリーフレット —

リーフレット①

「掲示板のよび」…教化センター

「世間の言葉」よって

傷つき

仏法の言葉によって

気付く』

リーフレット②

「今月のよび」……由上義孝

リーフレット③

『もしも相談』……墨林 浩

『不満が募り

お寺を変えたいが…』

リーフレット④

「仏典マンガ・仏さまのおしえ」

『平座で法を聞くこと』

(敬称略)

世間の言葉によって

傷つき

仏法の言葉によって

気付く

数年前、ご門徒と一緒に本山に宿泊した時のことです。同朋会館というところを拠点として聞法生活をするのですが、その会館周辺にはいたるところに法語が掲示されていて、参加してくださいとた60代の女性が一つの掲示板の前でしばらく立ち止まっておられました。

部屋でお茶を飲みながら話を聞いていると、2年くらい前に仲の良かった友人の些細な一言から関係がこじれてしまった以来連絡を取ってないということでした。仲直りしたい気持ちもあるのだが、相手の言動を思い出すと腹が立ってきました。となかなか状況は好転しなかったそうです。そして「ずっと悶々としていたけど、さっき掲示板の言

葉に出会ってなんだか胸がスーッとしました」と言われました。その言葉とは「私が正しい争いの根はここにある」という言葉でした。

その後、一緒に食堂に向かう途中でまたその掲示板の前を通りました。その時「これほんまに私の事やわ」と爽やかな顔でおっしゃっていたのがとても印象的でした。

言葉とは外に向かって発信するものですが、自分の都合によって発信する言葉は相手を傷つけてしまうこともしばしば。それに対し、内に向かって問いかけ、私を自覚めさせる言葉を仏法の言葉としよう。こうした言葉との出会いは聞法の一つの楽しみですね。

(教化センター)

もしもし相談



不満が募り
お寺を変えたいが…

問

昨年、夫が急逝した際、葬儀社からお寺さんを紹介してもらいました。それから月参りなどお願いしているのですが、約束の時間通りにお参りしてくれないなど、不満が募っています。夫の一周忌を迎える前にお寺さんを変えたいのですが、どうしたら良いでしょうか。

(54歳・女性)

答

結論を先に申せば、いくらでも他の寺院に替わることはできます。各地には宗派の出張所である「教務所」という所があります。そこに問い合わせ、100

宅の近くの寺院を紹介してもらうことができます。

ただここで、あなたにお尋ねいたしますが、あなたにとってお寺さんは、どのような存在なのでしょうか。

命日に約束の時間通りに来て、仏前で故人への追善供養の為にだけ、時間をかけて読経さえしてもらえばよい。ということなのでしょうか。それとも、一緒に出勤もして、たとえ短い時間でも、亡き人をご縁にして仏様の教えを聞かせて欲しい。という思いなのでしょうか。どのような点で意に添わないのでしょうか。

そもそも、浄土真宗のお寺は、阿弥陀様のお徳を讃え儀式を執り行い、同時に阿弥陀様のご本願

の御法、また、その御法を明らかにして下さった宗祖・親鸞聖人の教えを広め、その教えを聴聞させていただく場所でもあります。

そして、真宗寺院とご縁があった方、つまり、ご門徒となられた方々はご親族の「死」という悲しい逆縁をご縁にして、仏法を聴聞し、養われお育てにあずかるということ

が大事な役割もあります。そこに「人」が「共に」「養われる」という、本来の「供養」が成り立つのだと思います。そのためには、ご縁のあったご寺院の行事や聞法会にも率先して参加されることが大切であります。

今回、葬儀社からの紹

介の寺院で、関わり合いも浅いので難しいかもしれませんが、率直にあなたのご不満をお伝えいただきたいと思います。そのためには、月参りの時に仏事や教えについて素朴に質問されたり、寺院の行事や聞法会に参加されたり、もっとご寺院との関わり合いを深めて下さる事です。

ただし、もし、残念ながらあなたへの思いに反して、その思いに應じてもらえないご寺院であるならば、先に述べました「教務所」に是非ともご遠慮なくご相談下さい。あなたのご不満をお聞きして、適切なご寺院を紹介してもらえます。

(墨林 浩)

仏典マンガ・仏さまのおしえ



絵：小川ゆきえ (197)



参考仏典：『法句経注3・4』『付随煩惱経』など
 仏典や仏教童話などを参考に教化センターが独自に創作したお話です。